

## 1 指導のねらい

- ・ 複数の資料を的確に読み取る(領域:「読むこと」)

## 2 学習活動の設定

図書委員会では、図書室に新しい本を増やすことが決まった。どの種類の本を増やすのがよいか、資料A・B・Cを読んで考え、自分の意見をまとめる。

## 3 指導の実際(1時間扱い/第4・5学年対象)

学習活動	指導上の留意点・評価(○印)
1 図書委員会からのお願いの文章を読んで本時のめあてと学習内容を確かめる。(学習プリント1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複数の資料を関連させて考えることを押さえる。</li> <li>○進んで学習活動に取り組もうとしている。(国語への関心・意欲・態度)</li> </ul>
2 資料A、B、Cを読み取り、それぞれの資料から分かることを発表し合う。(学習プリント2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グラフや表から分かることを余白に書いたり、その根拠となる部分にしるしを付けたりしながら丁寧に読ませ、自分の考えを簡単にまとめさせる。</li> <li>○資料からの情報を正しく読み取っている。(読む能力)</li> </ul>
3 どの種類の本を増やしたらよいか、資料A、B、Cを関連させて考え、そう考えた理由を書く。(学習プリント1の第1案)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複数の資料を関連させて考えることを押さえる。</li> <li>・ 資料から分かったことを根拠にして理由を書くことを押さえる。</li> <li>○複数の資料から読み取ったことを関連させ、それを根拠に考えをまとめている。(読む能力)</li> </ul>
4 グループや学級全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の意見を明確にして発表させる。発表した児童の意見を分類して板書し、次の(5の)学習につなげる。</li> <li>[予想される意見(例)]</li> <li>* 高学年の図書室の利用が少ないので、それを改善するために、高学年に人気のある歴史の本を増やせばよいと思う。現在、図書室には歴史の本が少ない。歴史の本を増やせば高学年の図書室の利用が増えると思う。</li> <li>* 低学年は図書室をよく利用しているので、低学年に人気のある絵本や物語を増やせばよいと思う。</li> </ul>
5 第2案として、友だちの意見を参考に資料A、B、Cを関連させて考え、そう考えた理由を書く。(学習プリント1の第2案)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1案の段階で複数の資料を関連させて考えることができていなかった児童も、交流したことによって方法や考え方が分かりやすくなっているため、自主的に取り組ませる。</li> <li>・ 自分の考えを広げたり深めたりする機会とする。</li> <li>○友だちの意見を参考に、進んで複数の資料を関連させて考えようとしている。(国語への関心・意欲・態度)</li> </ul>

## 4 ここがポイント

- ◇ それぞれの資料(表とグラフ)を読み取った後、関連付けて考えさせる。
- ◇ 資料の内容を根拠として、自分の考えとそう考えた理由を述べさせる。

図書委員会から高学年の人に、次のようなお願いがありました。



図書委員会では、図書室に新しい本を増やすことが決まりました。そこで、どの種類の本を増やすのがよいか、みなさんの意見を聞かせてください。

注意 考える手がかりとして、資料を渡しますので参考にしてください。  
(一つの資料だけで決めてしまわないようにしてください。)

第一案

あなたは、どの種類の本を増やしたらよいと思いますか。また、なぜそう考えましたか。(二つ以上の資料で考えましょう。)

増やしたい本の種類…

理由…


第二案

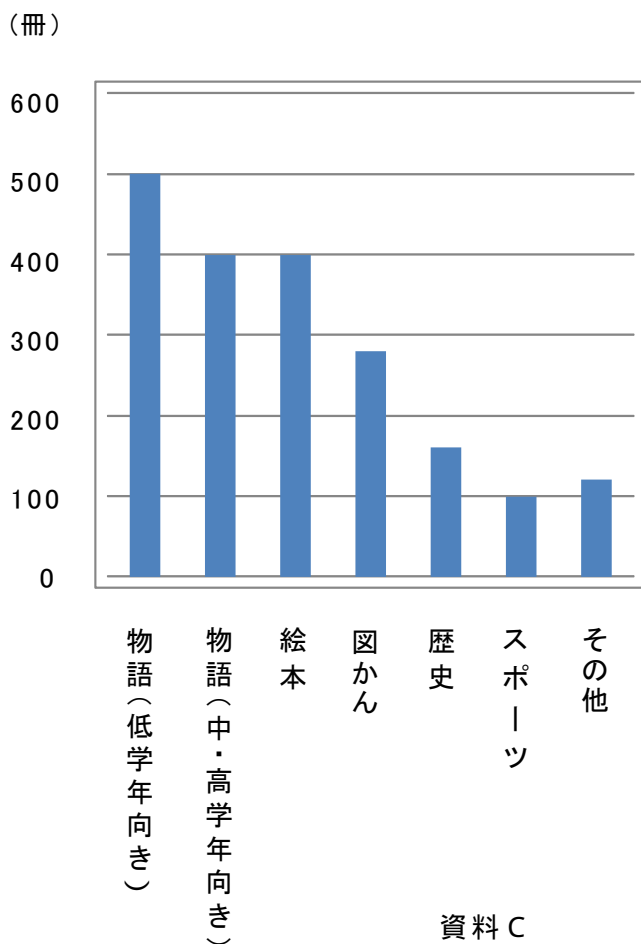
「どの種類の本を増やしたらよいか」ということについて、もう一つ意見を書きましょう。(友だちの意見を参考に、二つ以上の資料で考えましょう。)

増やしたい本の種類…

理由…


資料 A

【図書室にある本の種類ごとの冊数】



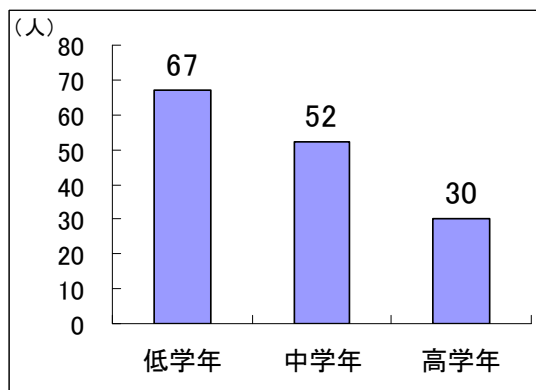
資料 B

【一週間の貸し出し冊数のランキング】

低学年		
1 位	絵本	186 冊
2 位	物語	117 冊
3 位	図かん	65 冊
中学年		
1 位	物語	126 冊
2 位	絵本	89 冊
3 位	れきし 歴史	52 冊
高学年		
1 位	れきし 歴史	88 冊
2 位	スポーツ	59 冊
3 位	物語	33 冊

資料 C

【ある日の図書室を利用した人数】



低学年、中学年、高学年の児童は、それぞれおよそ 100 人。

